

# 2022年3月期決算説明会

フォスター電機株式会社

(プライム市場：6794)

2022年5月20日

I. 2022年3月期 決算概要	P. 2
II. 2022年3月期総括と2023年3月期予想	P.11
III. 今後の取り組み	P.19
IV. 参考資料	P.27

# I. 2022年3月期 決算概要

---

# 2022年3月期業績

FOSTER

(百万円)

	21.3期	22.3期	増減額	増減率	22.3期 修正予想	差額	達成率
売上高	85,220	<b>91,106</b>	5,886	6.9%	92,000	△894	99.0%
営業利益	0.7	<b>△7,757</b>	△7,758	—	△7,000	△757	—
売上高営業利益率	0.0%	<b>△8.5%</b>			△7.6%		
経常利益	219	<b>△7,473</b>	△7,692	—	△7,000	△473	—
売上高経常利益率	0.3%	<b>△8.2%</b>			△7.6%		
当期純利益又は当期純損失*	△3,363	<b>△7,017</b>	△3,654	—	△6,000	△1,017	—
売上高当期純利益率 又は売上高当期純損失率*	△3.9%	<b>△7.7%</b>			△6.5%		
一株利益	△148.47円	<b>△315.53円</b>	△167.06円	—	△269.65円	△45.88円	—
一株配当	15.00円	<b>10.00円</b>	△5円	△33.3%	10.00円	0円	
配当性向	—	—	—	—			
ROE	△6.4%	<b>△14.4%</b>					
為替レート：米ドル	105.95円/\$	<b>113.06円/\$</b>					
：ユーロ	124.06円/€	<b>131.14円/€</b>					

\* 親会社株主に帰属する当期純利益又は当期純損失、親会社株主に帰属する売上高当期純利益率又は売上高当期純損失率

(百万円)

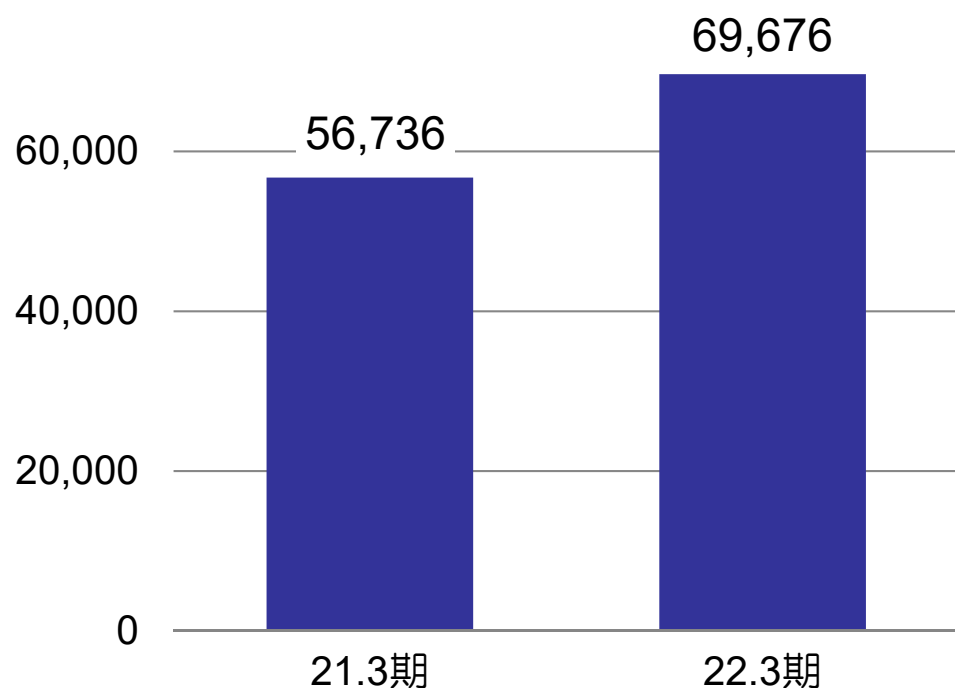
		21.3期	構成比	22.3期	構成比	増減率
売上高		85,220		91,106		6.9%
営業利益		0.7		△7,757		—
営業利益率		0.0%		△8.5%		
SP (スピーカ) 事業	売上高	56,736	66.5%	69,676	76.5%	22.8%
	営業利益	377	—	△6,955	—	—
	営業利益率	0.7%		△10.0%		
MA (モバイルオーディオ) 事業	売上高	21,574	25.3%	14,227	15.6%	△34.1%
	営業利益	△424	—	△896	—	—
	営業利益率	△2.0%		△6.3%		
その他事業	売上高	7,244	8.2%	8,330	7.9%	15.0%
	営業利益	47	—	94	—	100.9%
	営業利益率	0.6%		1.1%		

- コロナ禍からの自動車販売の回復に伴い大幅に増収
- 輸送コスト、原材料・部材費高騰、生産拠点でのコロナ影響による稼働率の低下等から営業損失

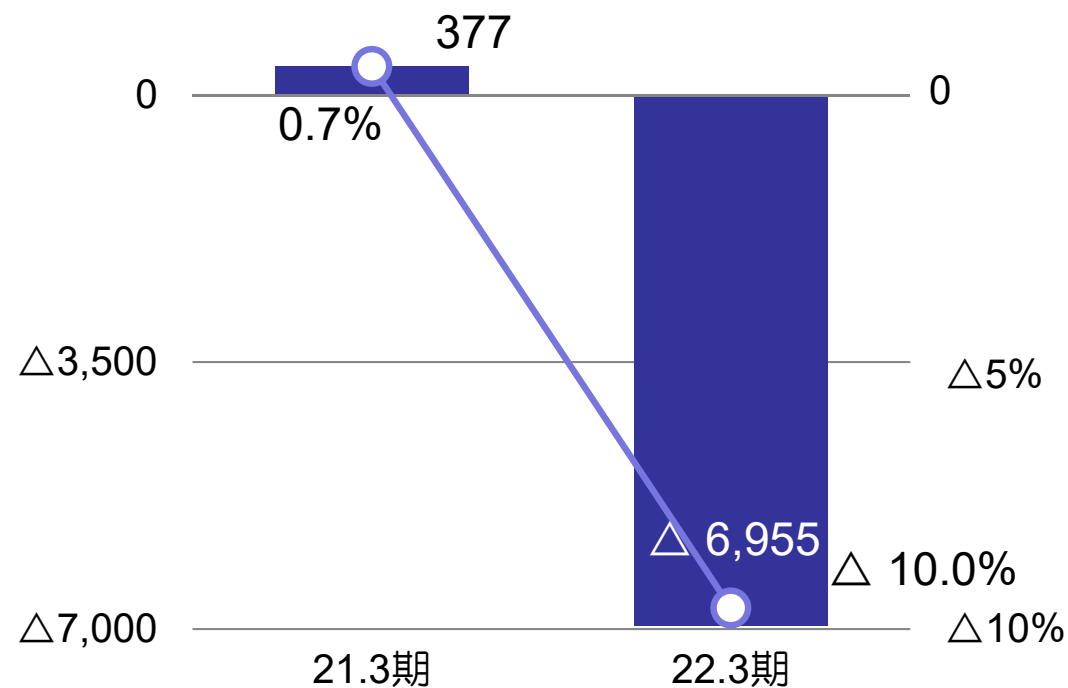
(百万円)

		21.3期	22.3期	構成比	増減率
SP事業	売上高	56,736	69,676	76.5%	22.8%
	営業利益	377	△6,955	—	—
	営業利益率	0.7%	△10.0%		

売上高（百万円）



営業利益・利益率（百万円）



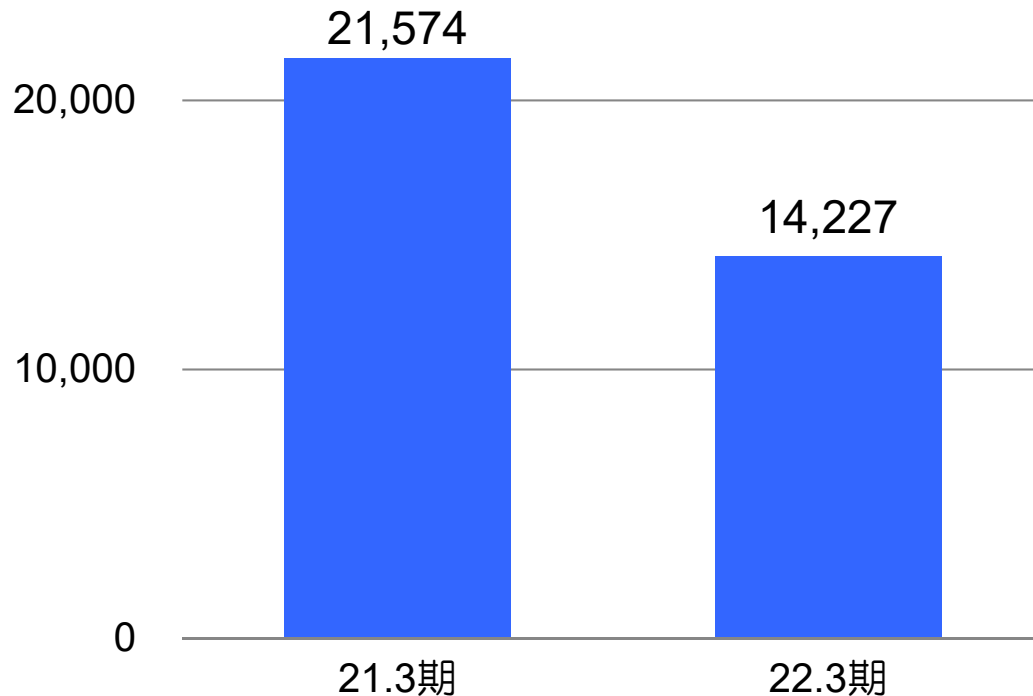
# セグメント別概況（MA事業）

- 民生用アクチュエータ、車載用ヘッドホンは好調
- スマートフォン同梱用のヘッドセットの販売が終息に向かっていることから減収減益

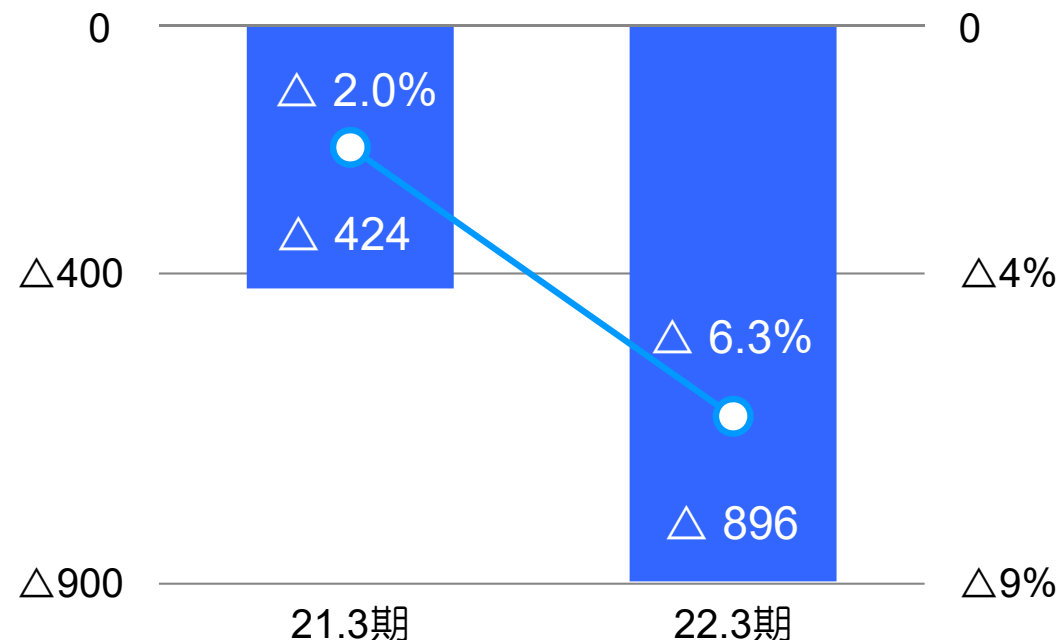
(百万円)

		21.3期	22.3期	構成比	増減率
MA事業	売上高	21,574	14,227	15.6%	△34.1%
	営業利益	△424	△896	—	
	営業利益率	△2.0%	△6.3%		

売上高（百万円）



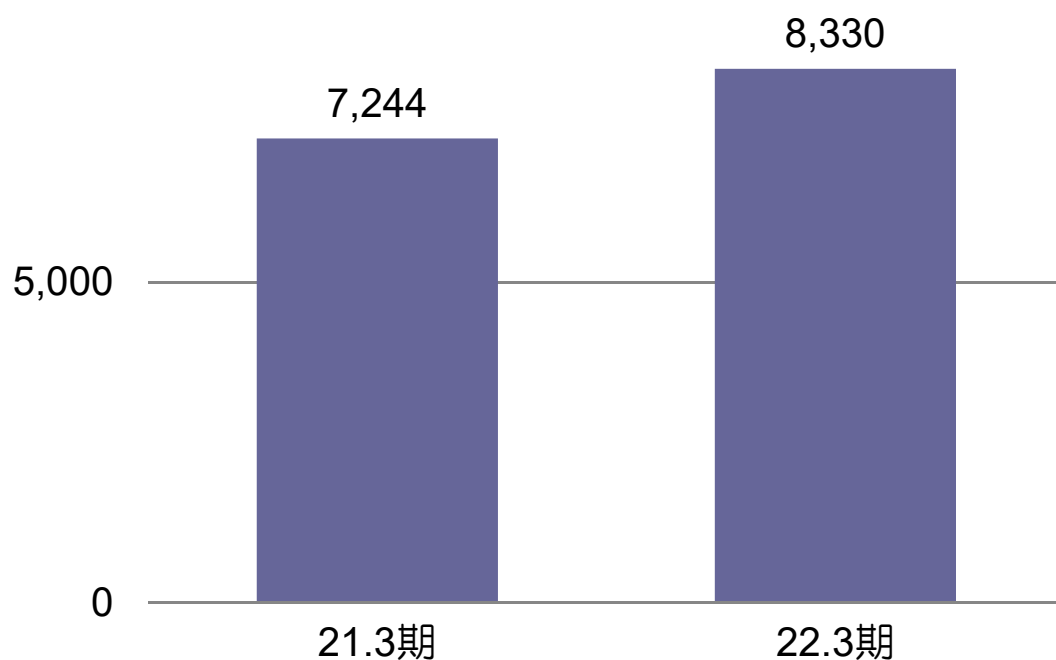
営業利益・利益率（百万円）



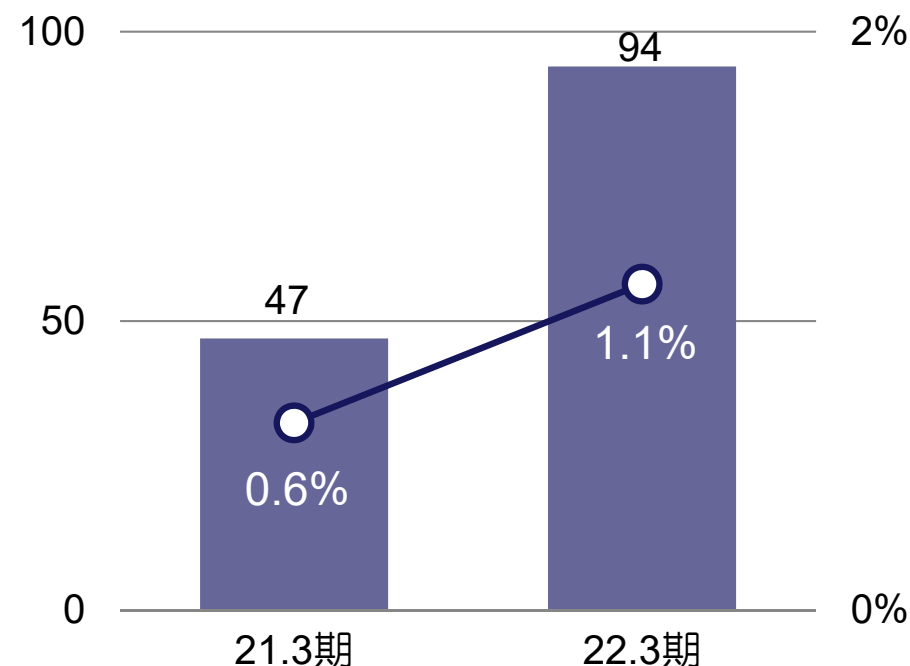
- 戦略製品の小型音響部品事業が堅調に推移し、大幅に増収増益

		(百万円)			
		21.3期	22.3期	構成比	増減率
その他事業	売上高	7,244	8,330	7.9%	15.0%
	営業利益	47	94	—	100.9%
	営業利益率	0.6%	1.1%		

### 売上高（百万円）



### 営業利益・利益率（百万円）





## 22.3期末の自己資本比率は54.7%（21.3期末65.6%）

（百万円）

	21.3期	22.3期	増減額
流動資産	59,040	67,143	8,103
現金・預金	15,470	10,846	△ 4,624
受取手形・売掛金	16,945	19,351	2,406
棚卸資産	18,479	30,454	11,975
その他	8,146	6,492	△ 1,654
固定資産	18,193	19,005	812
有形固定資産	15,213	15,614	401
無形固定資産	189	203	14
投資・その他の資産	2,790	3,187	397
資産合計	77,233	86,148	8,915
流動負債	18,738	32,889	14,151
支払手形・買掛金	8,735	11,179	2,444
短期借入金	2,556	12,247	9,691
1年以内長期借入金	1,528	818	△ 710
その他	5,919	8,645	2,726
固定負債	2,501	1,627	△ 874
長期借入金	1,118	300	△ 818
その他	1,383	1,327	△ 56
純資産	55,993	51,632	△ 4,361
株主資本	50,837	43,409	△ 7,428
その他の包括利益合計額	△ 198	3,753	3,951
非支配株主持分	5,354	4,469	△ 885
負債・純資産合計	77,233	86,148	8,915

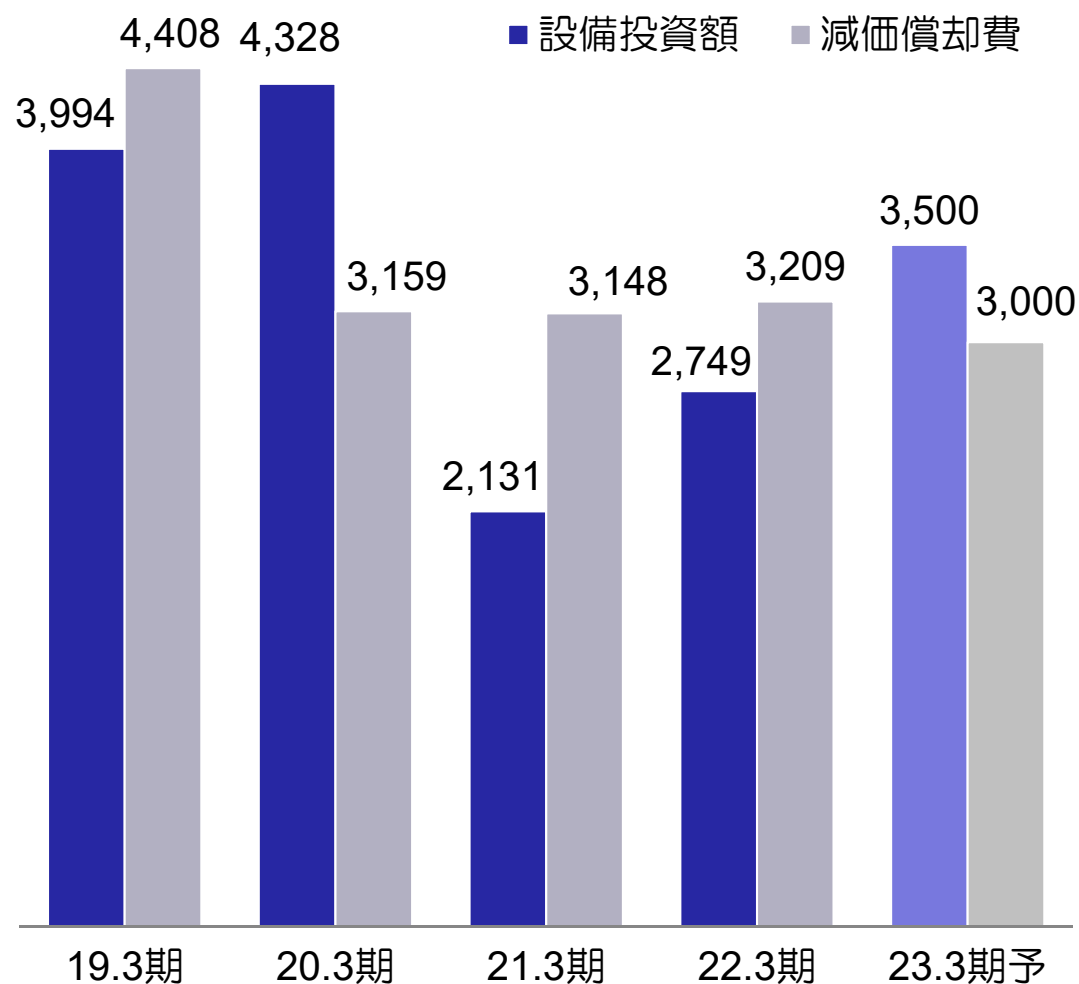
## 22.3期のフリーキャッシュ・フローは、△158億円

(百万円)

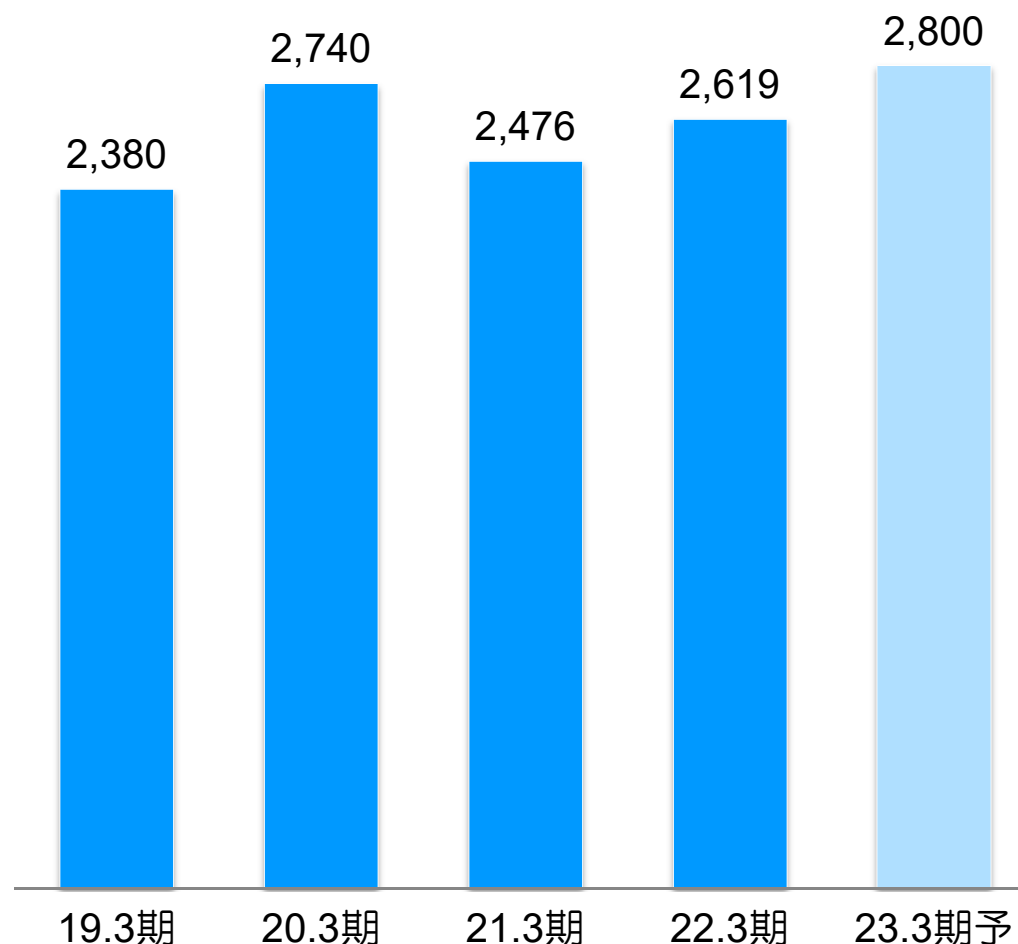
	21.3期	22.3期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	739	△12,767	△13,506
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,960	△3,071	△1,111
フリーキャッシュ・フロー*	△1,221	△15,838	△14,617
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,624	6,771	9,395
現金及び現金同等物の増減額	△3,557	△8,284	△4,727
現金及び現金同等物の期末残高	20,373	12,089	△8,284

\*「フリーキャッシュ・フロー」＝「営業活動によるキャッシュ・フロー」＋「投資活動によるキャッシュ・フロー」

## 設備投資額及び減価償却費（百万円）



## 研究開発費（百万円）



## II. 2022年3月期総括と2023年3月期予想

売上高は増収となるものの、利益はかつてない厳しい結果となる

1

半導体不足等による断続的な自動車生産調整の影響があったものの増収を達成

2

海上運賃高騰及び空輸の増加による輸送コストの上昇、原材料費・部材費の高騰、サプライチェーンの混乱

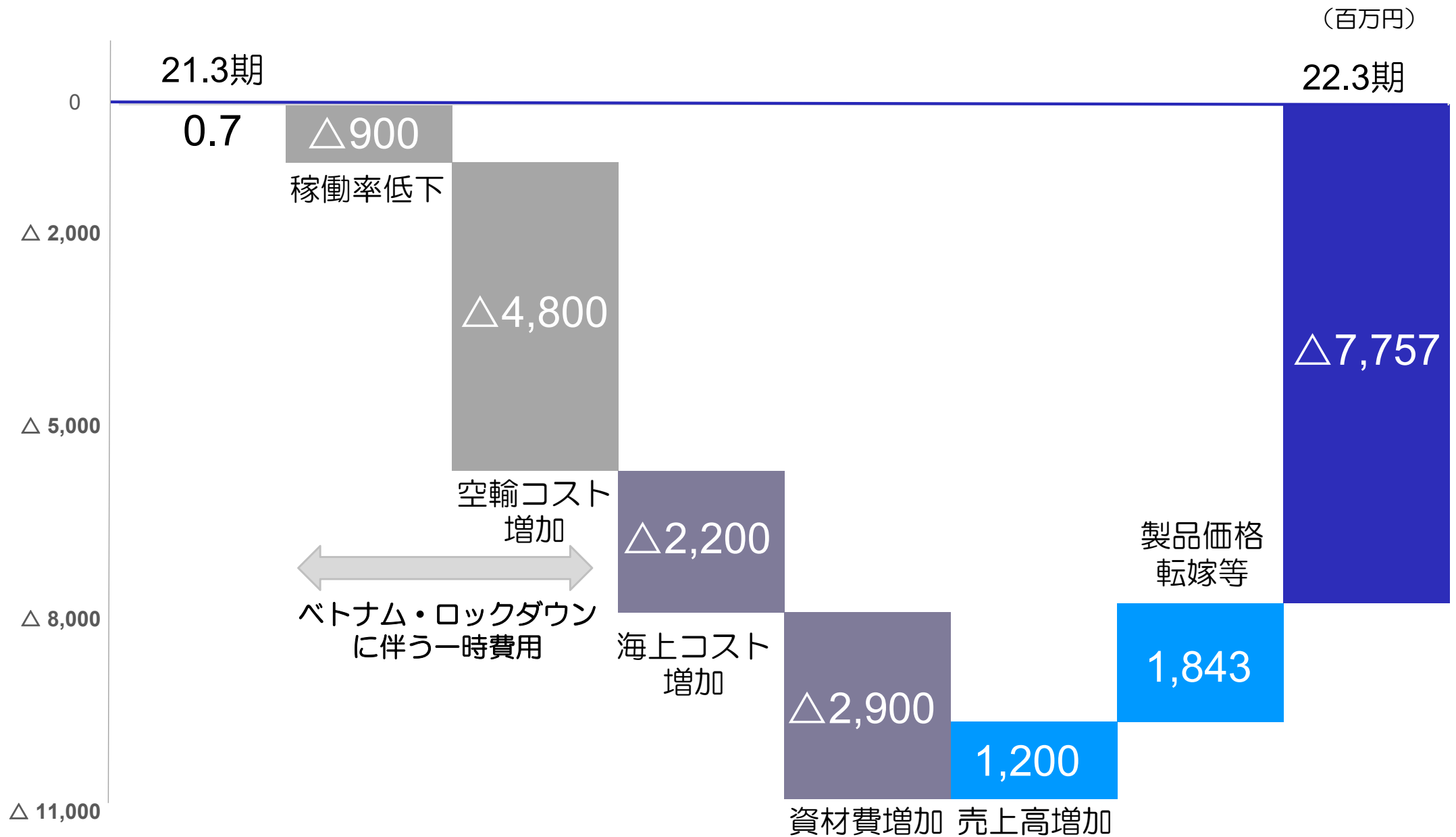
3

中期事業計画達成に向けて受注は好調  
特に戦略製品（警報音、接近通報音、車載用ヘッドホン等）は年率30%伸張

4

研究・開発型ビジネスを強化し、より広範な顧客要請に長期に取り組める体制づくりに転換、今期以降の黒字化に目途

# 増減分析（営業利益） 2021年3月期～2022年3月期実績 FOSTER



取り巻く環境は、かつてないほど不安定・不透明であるが、増収増益を計画

(百万円)

	22.3期	23.3期予想	増減額	増減率
売上高	91,106	100,000	8,894	9.8%
営業利益	△7,757	500	8,257	—
売上高営業利益率	△8.5%	0.5%		
経常利益	△7,473	500	7,973	—
売上高経常利益率	△8.2%	0.5%		
当期純利益又は当期純損失*	△7,017	300	7,317	—
売上高当期純利益率 又は売上当期純損失率*	△7.7%	0.3%		
一株利益	△315.53円	13.52円		
一株配当	10.00円	未定		
配当性向	—	未定		
為替レート：米ドル	113.06円/\$	125.00円/\$		
：ユーロ	131.14円/€	135.00円/€		

\*. 親会社株主に帰属する当期純利益、売上高親会社株主に帰属する当期純利益率

## 中間配当10円を予定、期末配当は未定

現在の不透明かつ不安定な経営環境や今後の業績を勘案し、期末配当は未定

経営環境の変化を見極めつつ、業績回復の進捗状況をより確実に見通すことができる段階で公表予定

## 【配当方針】

企業価値の向上を経営課題としつつ、業績に対応した利益配分と長期的な視野に立った内部留保の充実との調和を図りながら、配当性向20%以上を目標とする

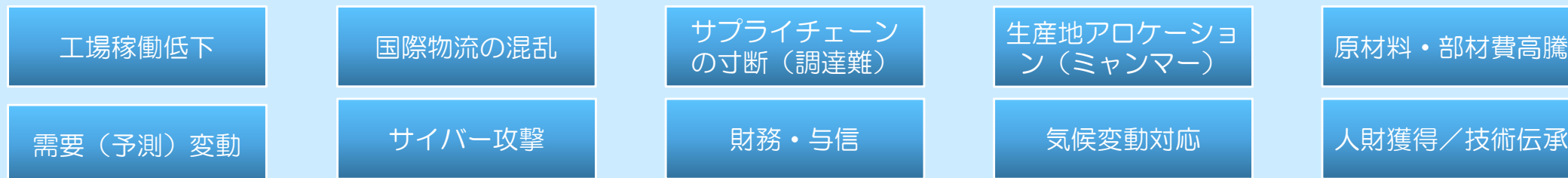
	19.3期	20.3期	21.3期	22.3期	23.3期予
一株利益	△83.21円	69.15円	△148.47円	△315.53円	13.52円
一株配当 (中間・期末)	20円 (10円・10円)	35円 (20円・15円)	15円 (10円・5円)	10円 (10円・0円)	未定 (10円・未定)
配当性向	—%	50.6%	—%	—%	未定



## 市場環境は、かつてない不安定・不確実な状況



社会・政治・経済・気候危機が複合的に連鎖することで、リスクの顕在化が速まり、影響度が増している



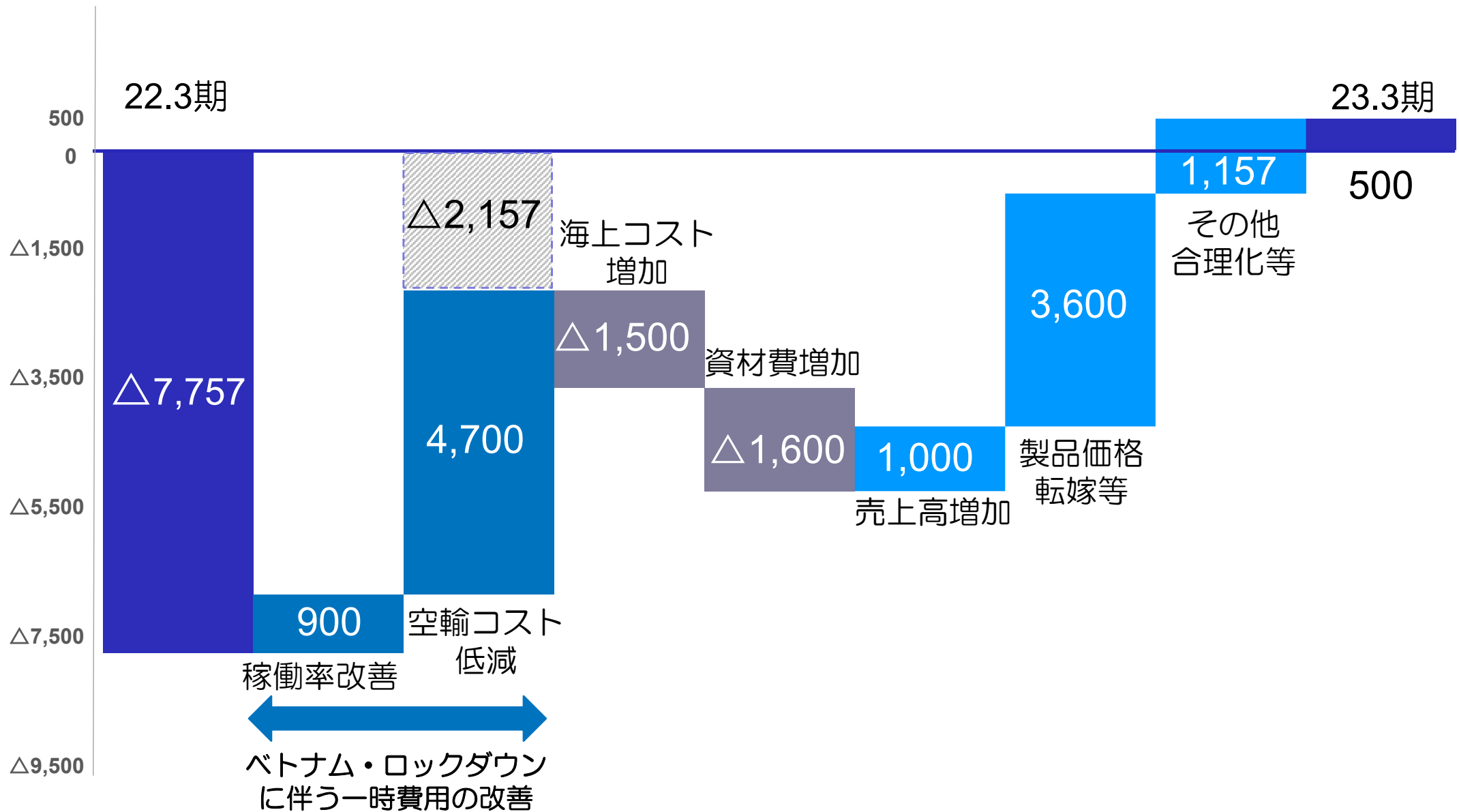
フォワードルッキングなリスク管理、即応態勢を強化

## 前期浮き彫りになった課題への対応強化

	主な施策
営業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 海上運賃、原材料価格等の変動に合わせた「市場連動制」の導入</li> <li>■ 顧客との密接な連携による需要動向の的確な把握</li> </ul>
生産・ロジスティクス	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ BCP対応を含め適切な在庫・生産コントロール</li> <li>■ グローバルロジスティクス管理の高度化</li> </ul>
調達	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ サプライヤーとの協働強化によるコスト低減                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ サプライヤー提案の積極採用によるコスト低減</li> <li>・ BCP対応強化</li> </ul> </li> <li>■ 主要部品である振動系部品を中心にさらなる内製化の推進</li> </ul>
製造	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 韓国子会社を含めた製造バックアップ体制強化</li> <li>■ 欧州での新規生産体制の構築、ベトナムでの増産</li> </ul>

# 増減分析（営業利益） 2022年3月期～2023年3月期予想

（百万円）

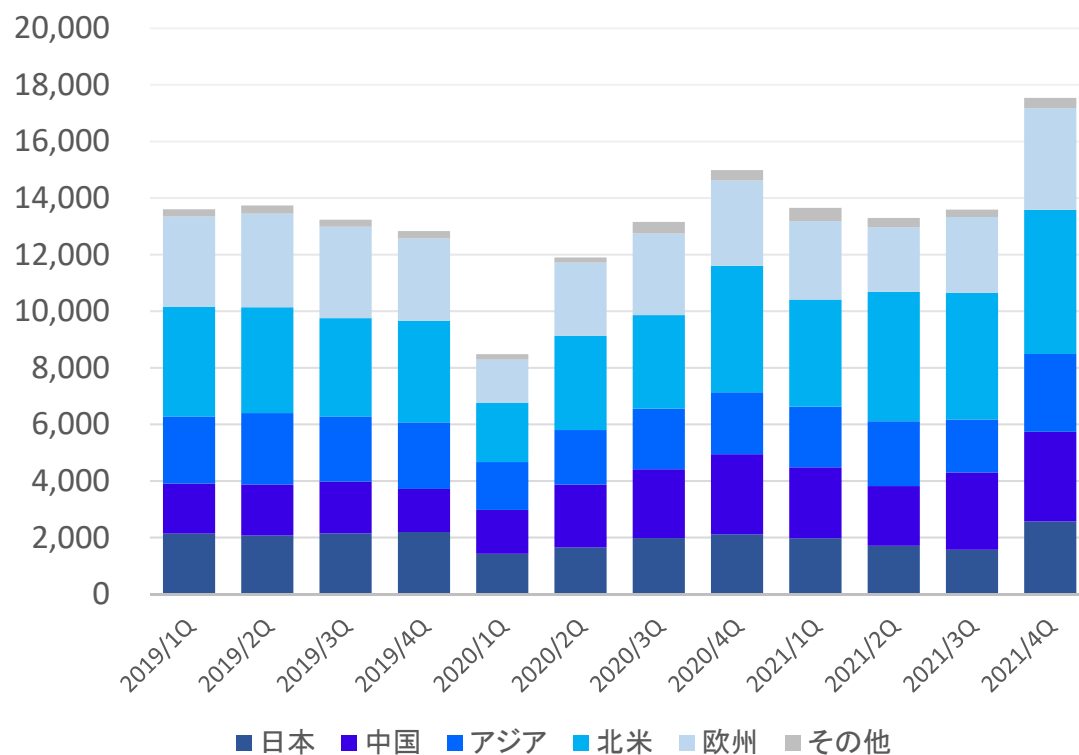


## III. 今後の取り組み

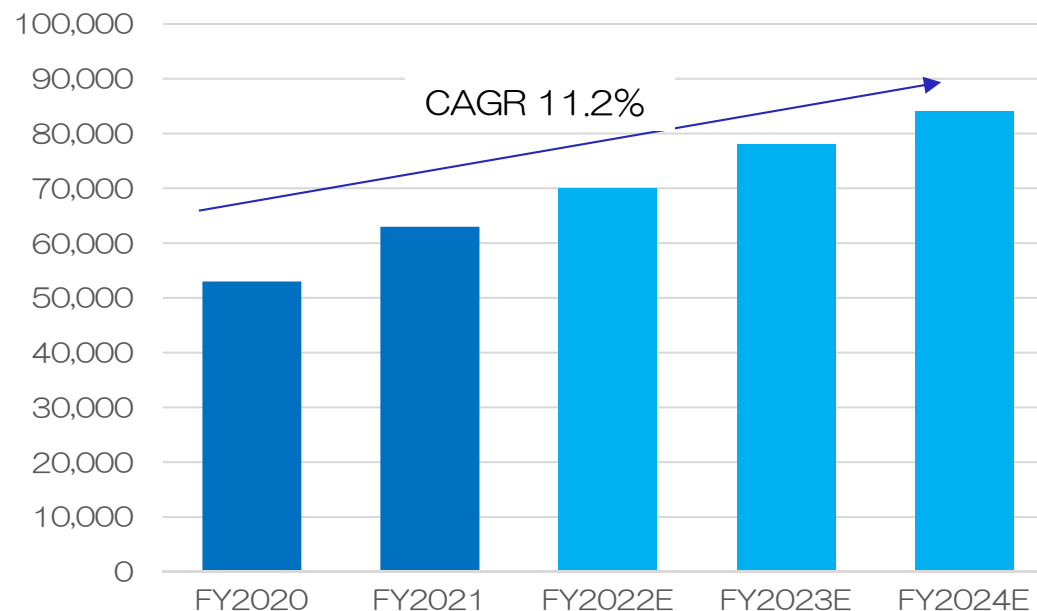
---

- 車載用スピーカは、自動車メーカーの生産調整の影響はあったものの増収
- 車載関連ビジネス売上高は中期事業計画通り進捗

## 車載用スピーカ地域別売上高



## 車載関連ビジネス売上計画



※ 車載関連ビジネスは、車載用スピーカ、小型音響部品（ブザー等）、車載用ヘッドホン等、当社グループ製品で車載用として使用される製品すべてを含みます。  
 ※ 上記数値は今後の自動車販売や当社の受注獲得の状況など様々な要因により大きく変化します。

## 変容する自動車産業において車載関連事業のレジリエンスを強化

### 車載関連市場：当社事業ポートフォリオの中心

顧客が企図する戦略に応じて差別化戦略・コスト戦略を実現し、車載関連事業において「音」「振動」で確固たる地位を構築する

#### 日米欧完成車メーカー向け

##### 差別化戦略（Fosterブランド中心）

- ▶ EV化コストの低減が進むにつれ車室内の音響システム等の付加価値提供機会の増大
- ▶ ターゲットとする日米欧完成車メーカー、新規参入ITメーカー等に対し、全方位モビリティデバイスを提供
- ▶ 先行開発段階から参入し、ターゲット顧客と重層的なリレーションシップを構築

#### 中国ローカルを中心とする低価格EV車向け

##### コスト戦略（Fourstar中心）

- ▶ 低価格EV車は中長期自動車販売において数量増加効果が期待できる
- ▶ 新たに設立した中国子会社（ブランド名：Fourstar）による営業活動の本格化
- ▶ 低価格EV販売を企図する中国ローカルメーカーを中心に、顧客ニーズに合わせたモビリティデバイスを低価格で提供

環境対応・省エネ対応等、地球にやさしい製品・モノづくり

それぞれの立ち位置で戦略パートナーとしての地位を確立

## 強みを生かし、新たな市場の創出・新たな社会課題の解決に取り組む

### デジタル化の進展

#### 新たな市場の創出

AI、ロボット、メタバース、ウェアラブル、スマート医療等

#### 新たな社会課題

プライバシー保護、情報セキュリティ、デジタル難民等

### 戦略パートナーとともに感性価値（聴覚・触覚）の提供

研究・開発ビジネスの強化／さらなる付加価値の実現

音響技術の強みを生かし  
市場創出に寄与

個性のある音づくり

より広範囲な音域・振動  
領域の実現

顧客ニーズを先取りした  
提案力

グローバルなサポート体制

• 70年間培われた  
音づくり、音響  
技術

技術

製造

• 現場力により柔  
軟な対応ができ  
る製造体制

音響技術の強みを生かし  
顧客と共創による社会課題  
の解決

より信頼性・安定性の高い  
製品の供給

環境対応技術

消音・静音技術

認証対応技術

• 大手グローバル  
顧客との取引実  
績に基づく提案  
力/サポート力

営業

品質

• 高品質を実現す  
る安定的な品質  
保証力

## 研究・開発の強化とキャッシュ・フロー創出の早期化

### 【デジタル化の進展とビジネス展開】

#### デジタル化の進展

##### ビジネスチャンスの拡大

- 「音」「振動」に対するニーズの拡がり
- デジタル技術とアナログ技術の融合による差別化ニーズ

##### デジタル化に伴う主なリスク

- コモディティ化の加速
- 製品の陳代謝の加速（アップデートの加速）

- ◆ デジタル技術革新により新たな市場が創出され、「音（聴覚）」「振動（触覚）」の事業機会が拡大する
- ◆ 新たな市場で人々は、新たな体験をすることが可能になる
- ◆ 体験価値を高めるにはアナログ技術が不可欠であり、当該技術の差異が競争優位につながる
- ◆ デジタル化による市場が、どの程度のスピードでどのように創出されるか、現時点では見通し困難
- ◆ デジタル化の進展に合わせたビジネスモデルの構築が必要

### 【バリューチェーンとキャッシュ・フローの創出】

研究・開発 → 購買 → 生産 → 物流 → 販売 → サービス

強みを生かす

これまでの  
キャッシュ・フロー創出時期

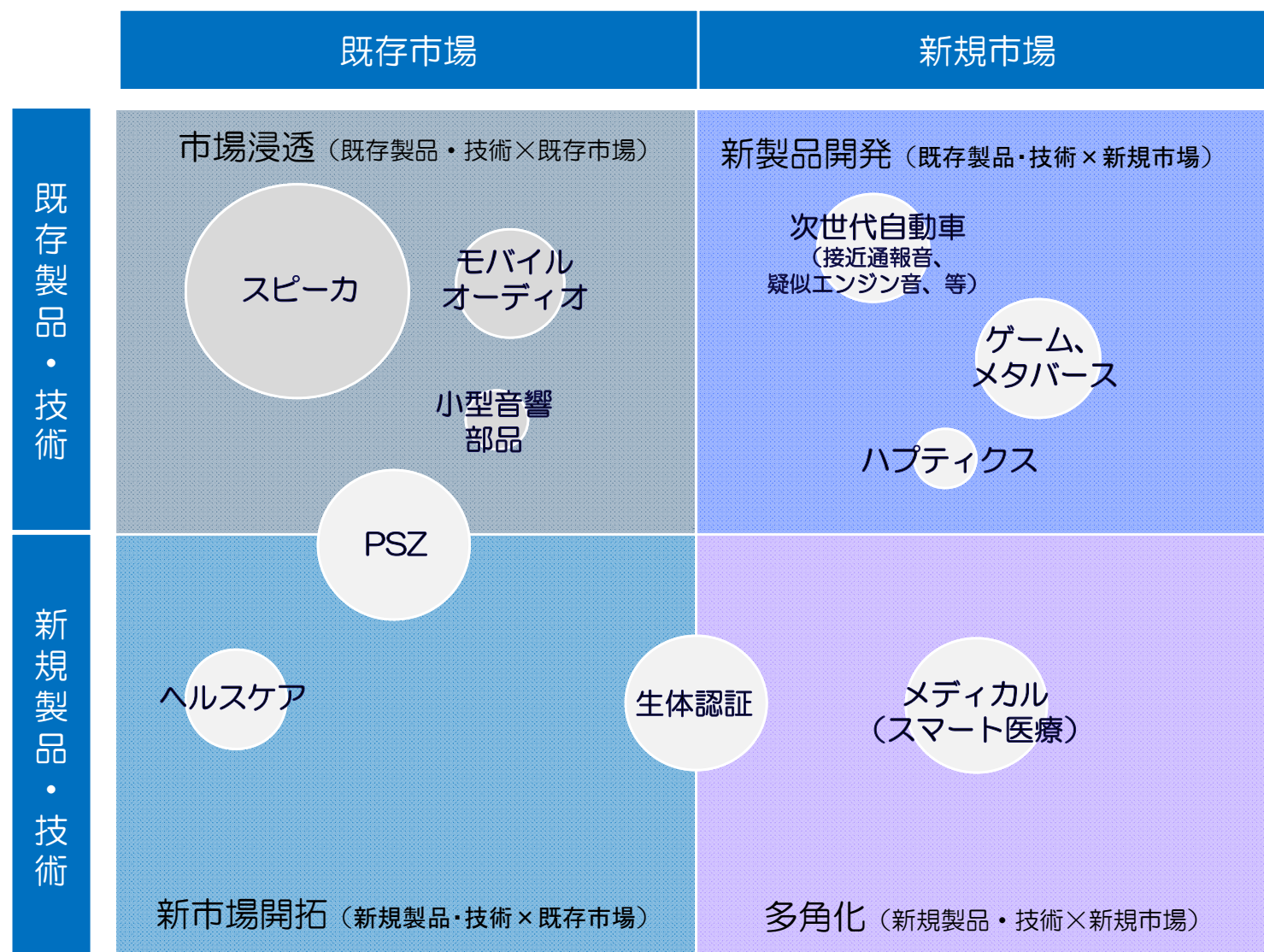
研究・開発をさらに強化し、キャッシュ・フローの創出を図る／顧客との価値共創

川上・川下でのキャッシュ・フロー創出でバリューチェーン全体でのさらなる価値創造につなげる

- ◆ これまでのビジネス展開では、量産化により当該資金を回収・利益を獲得
- ◆ 音響技術トップクラスの当社は、バリューチェーンの川上である技術・開発に価値創造の源泉がある
- ◆ デジタル技術との融合において、研究・開発段階から顧客と協働して価値を創出
- ◆ 研究・開発段階からキャッシュ・フローを創出することで広範囲の市場で中長期的にリスクテイクすることが可能となる



## デジタル化の進展とともに広がるビジネスチャンス



- 接近通報音・疑似エンジン音
  - ⇒ EV化の進展とともに数量増大
  - ⇒ 音づくりニーズの強まりに伴うスピーカ口径拡大
- ゲーム／メタバース
  - ⇒ ゲーム用アクチュエータの顧客拡大への取り組み
  - ⇒ 前年度よりスマートグラス用ドライバの販売開始
  - ⇒ アクチュエータの用途拡大への取り組み
- ヘルスケア／メディカル (スマート医療)
  - ⇒ オンライン診療の拡がりに対する取り組み開始
  - ⇒ 今年度よりフェムテック関連製品 (アクチュエータ) の販売開始
  - ⇒ ウェルビーイング関連の検討開始

注1) PSZは26ページ参照

注2) 円の大きさは当社が期待する当社のビジネス規模

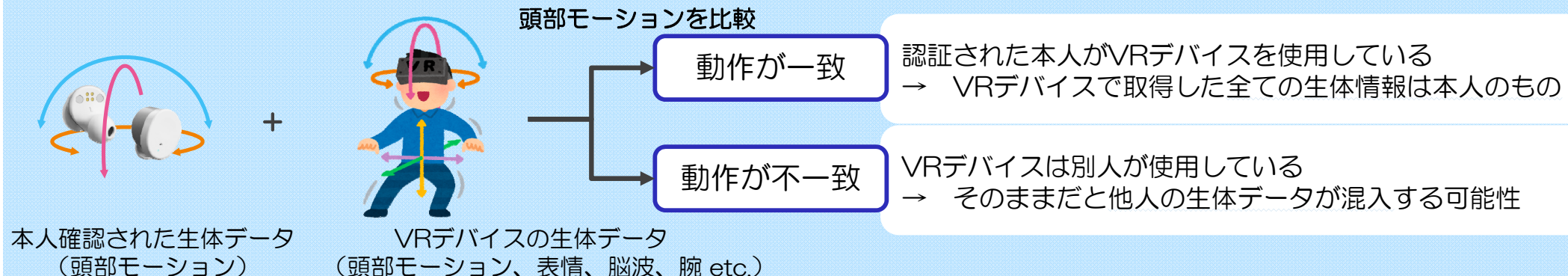
## 社会課題を解決 (イヤホン技術を活用したプライバシー保護、生体センサー)

### ヒアラブルデバイス「ROBIN」の提供する価値



<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 常時認証デバイスとして</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ PCやサービスへのログイン ⇒通話のための動作で認証完了 ※耳音響認証に関しては日本電気株式会社 (NEC) と共同開発</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 生体センサーとして</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ VR/AR用途やメディカルトレーニングにおける頭部モーションの取得</li> <li>➢ SaMD (Software as a Medical Device : 一般機器+認定アプリで医療を行う) の流れが2021年より加速していることからメディカル用途として用いられる可能性</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 常時認証された信頼性の高い生体センサーとして</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ VRデバイスのみ ⇒ 共用/なりすましによる他人の生体データ (=ノイズ) の混入リスク有り</li> <li>➢ ROBINのみ ⇒ 本人確認された生体データ (心拍/頭部モーション) を提供</li> <li>➢ VRデバイスと組み合わせ ⇒ <b>ROBINの動きを比較することで、VRデバイスにまで本人判定を拡大することが可能</b></li> </ul>

### 【VRデバイスと組み合わせ】



## NTTソノリティ株式会社と共創し「豊かな音響空間提供」を実現/社会課題の解決

NTTソノリティ株式会社との業務提携（2022年4月11日）

### ■ 業務提携の目的

NTTソノリティ株式会社が企画するPSZ等の革新的な技術を搭載した音響関連製品事業について、戦略的・包括的に協力し、「豊かな音響空間提供」という新しい付加価値の共創と社会への提供を効率的かつ確実にすることを目的とする

### ■ 共創による成長

当社グループはスピーカ開発技術・音響ビジネス領域において世界的な優位性と、幅広い企業との強固なパートナーシップを有しており、本ビジネス拡大において戦略パートナーとして、ともに成長を目指す

### 【ご参考：利用シーンとシェルサイズのイメージ】



シートごとに異なるコンテンツが聞ける自動車シート



会話をしながら音漏れなく音楽を楽しめるウェアラブルデバイス・ポータブルスピーカー



ヘッドホンフリーで音漏れのないWeb会議



ヘッドホンフリーでコンテンツが楽しめる航空機シート

### PSZ (Personalized Sound Zone)

PSZ技術は、耳の付近に高音質な音を閉じ込め、360°どの方向に対しても音が漏れないようにする技術です。通常は活用されないスピーカの背面から出ている音を積極的に活用するという逆転の発想で、ハードウェアに対しての工夫を加える、さらにソフトウェアによる干渉制御を行うこと、によりサウンドシェル<sup>(注)</sup>を作ります。(シェルサイズ10-20cm、シェルサイズ1-2cmを商用化)

(注) 音を閉じ込めた空間のこと

出所：NTTソノリティ株式会社

## IV. 參考資料

---

社是は「誠実」、ビジョンは「未来社会に音で貢献する」

商号	フォスター電機株式会社
英文商号	Foster Electric Company, Limited
代表者	代表取締役会長CEO 吉澤博三 代表取締役社長COO 成川 敦
創業	1949年6月20日
本社所在地	〒196-8550 東京都昭島市つつじが丘一丁目1番109号
上場市場	東京証券取引所 市場第二部上場 (1962年5月) 市場第一部指定 (1999年9月) プライム市場へ移行 (2022年4月)
資本金	67億7千万円 (2022年3月31日現在)
事業内容	スピーカ及び音響機器・電子機器の製造、販売
従業員数	連結：17,258名 (中国・番禺の製造委託先の従業員数を含む) 単体：438名 (連結、単体ともに2022年3月31日現在)

## ODM・OEMを中心に、独自のアナログ技術の音響製品を供給

### SP事業

- オーディオ用及びテレビ用スピーカ・スピーカシステム、車載用スピーカ・スピーカシステム等

TV用スピーカ



車載用スピーカ



車載用スピーカシステム



### MA事業

- ヘッドホン/ヘッドセット、イヤホンドライバ及び振動アクチュエータ等

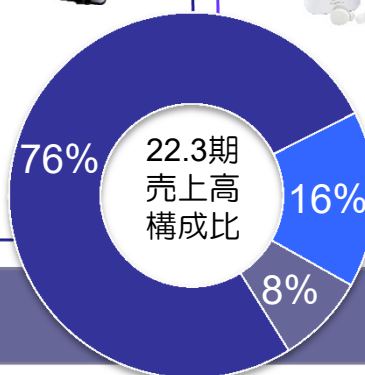
ヘッドホン/ヘッドセット



イヤホンドライバ



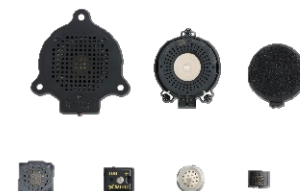
アクチュエータ



### その他事業

- 警報音用ブザー・サウンド製品  
フォステクスブランドの製品、  
物流サービス等

小型音響部品



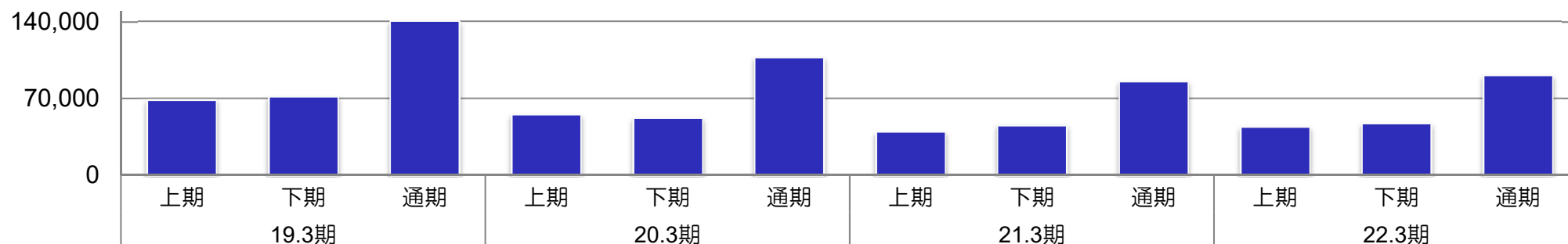
フォステクス製品



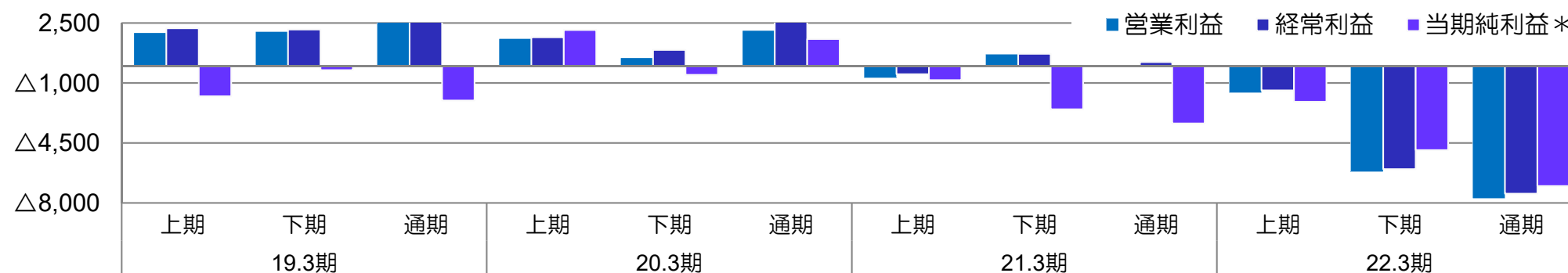
## 業績表 (百万円)

	19.3期			20.3期			21.3期			22.3期		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	68,758	71,545	140,303	55,277	52,021	107,298	39,528	45,692	85,220	43,976	47,130	91,106
営業利益	1,938	1,999	3,937	1,594	470	2,064	△688	688	0.7	△1,568	△6,189	△7,757
経常利益	2,198	2,120	4,318	1,668	931	2,599	△488	707	219	△1,433	△6,040	△7,473
当期純利益*	△1,776	△250	△2,026	2,090	△525	1,565	△829	△2,534	△3,363	△2,093	△4,924	△7,017
営業利益率	2.8%	2.8%	2.8%	2.9%	0.9%	1.9%	△1.7%	1.5%	0.0%	△3.6%	△13.1%	△8.5%
経常利益率	3.2%	3.0%	3.1%	3.0%	1.8%	2.4%	△1.2%	1.5%	0.3%	△3.3%	△12.8%	△8.2%
当期純利益率*	△2.6%	△0.3%	△1.4%	3.8%	△1.0%	1.5%	△2.1%	△5.5%	△3.9%	△4.8%	△10.4%	△7.7%

## 売上高 (百万円)



## 利益 (百万円)



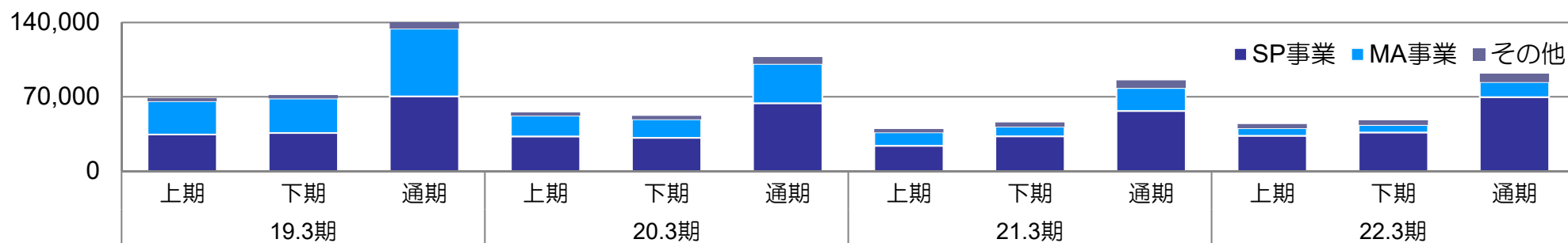
\*親会社株主に帰属する半期純利益及び当期純利益、売上高親会社株主に帰属する半期利益率及び当期純利益率

# 半期及び通期 セグメント別業績

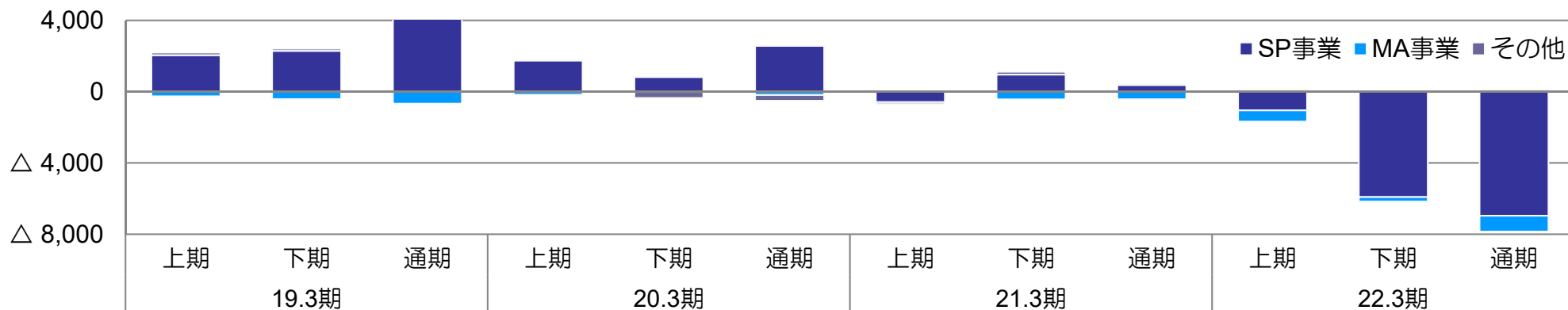
## 業績表 (百万円)

	19.3期			20.3期			21.3期			22.3期		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高												
SP事業	34,450	35,953	70,403	32,631	31,324	63,955	23,892	32,844	56,736	33,294	36,382	69,676
MA事業	31,407	32,444	63,851	19,603	17,456	37,059	12,593	8,981	21,574	7,137	7,090	14,227
その他	2,990	3,234	6,224	3,107	3,347	6,454	3,176	4,068	7,244	3,880	4,450	8,330
営業利益												
SP事業	2,050	2,293	4,343	1,754	817	2,571	△584	961	377	△1,045	△5,910	△6,955
MA事業	△254	△416	△670	△170	△17	△187	5	△429	△424	△631	△265	△896
その他	143	122	265	10	△330	△320	△109	156	47	108	△14	94

## 売上高 (百万円)



## 営業利益 (百万円)

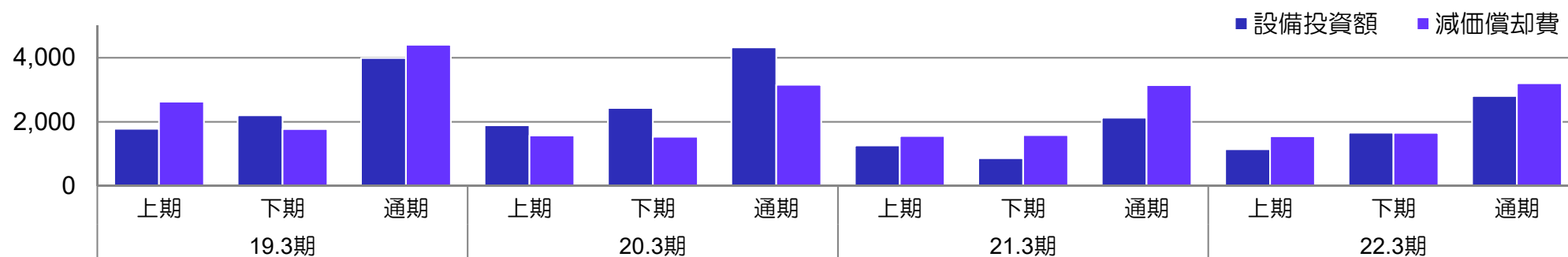




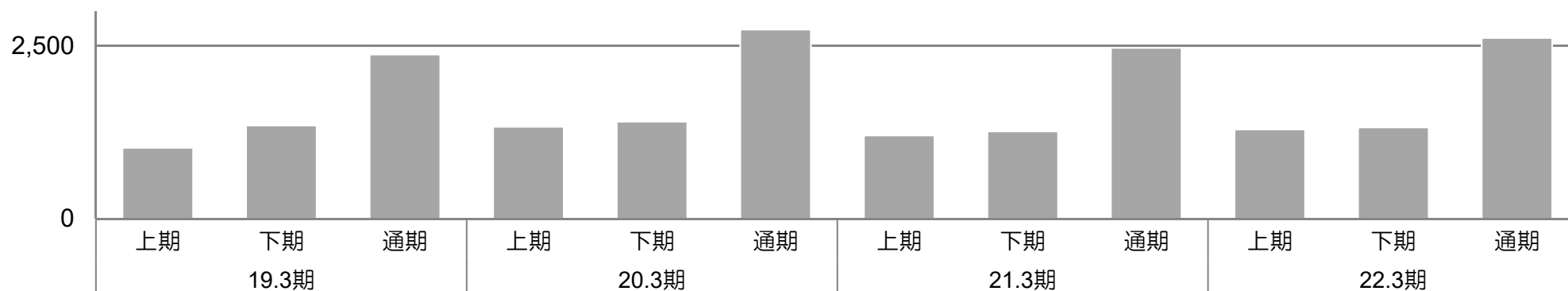
## 設備投資額、減価償却費及び研究開発費（百万円）

	19.3期			20.3期			21.3期			22.3期		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
設備投資額	1,786	2,208	3,994	1,894	2,434	4,328	1,263	868	2,131	1,146	1,603	2,749
減価償却費	2,631	1,777	4,408	1,576	1,583	3,159	1,560	1,588	3,148	1,552	1,657	3,209
研究開発費	1,029	1,351	2,380	1,333	1,407	2,740	1,209	1,267	2,476	1,294	1,325	2,619

## 設備投資額、減価償却費（百万円）



## 研究開発費（百万円）

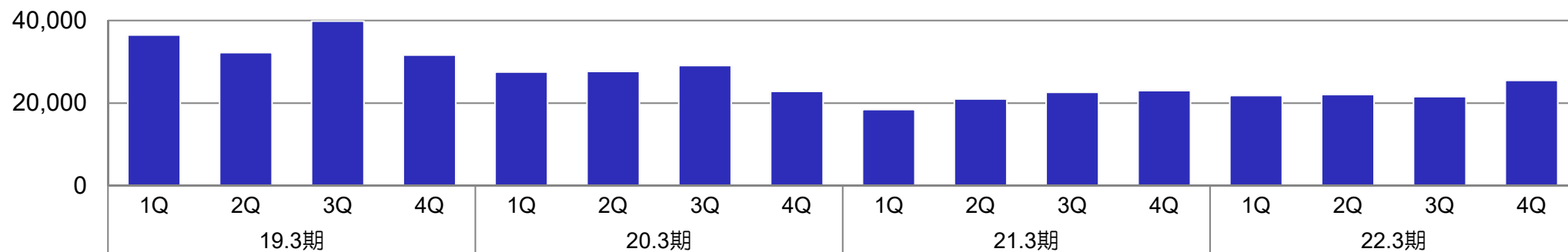


# 四半期業績

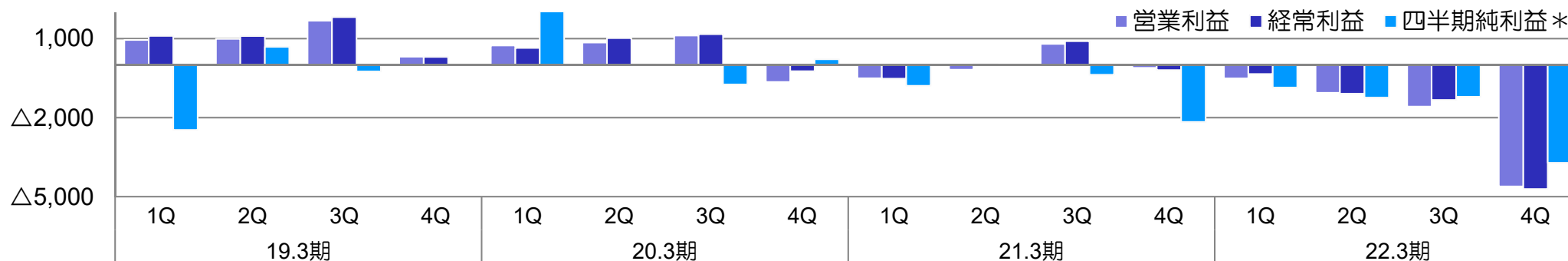
## 業績表 (百万円)

	19.3期				20.3期				21.3期				22.3期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	36,512	32,246	39,894	31,651	27,561	27,716	29,132	22,889	18,480	21,048	22,641	23,051	21,860	22,116	21,595	25,535
営業利益	947	991	1,682	317	741	853	1,117	△647	△507	△181	799	△110	△511	△1,057	△1,578	△4,611
経常利益	1,101	1,097	1,815	305	648	1,020	1,166	△235	△518	30	900	△193	△345	△1,088	△1,329	△4,711
四半期純利益*	△2,464	688	△244	△6	2,067	23	△740	215	△791	△38	△373	△2,161	△857	△1,236	△1,205	△3,719
営業利益率	2.6%	3.1%	4.2%	1.0%	2.7%	3.1%	3.8%	△2.8%	△2.7%	△0.9%	3.5%	△0.5%	△2.3%	△4.8%	△7.3%	△18.1%
経常利益率	3.0%	3.4%	4.5%	1.0%	2.4%	3.7%	4.0%	△1.0%	△2.8%	0.1%	4.0%	△0.8%	△1.6%	△4.9%	△6.2%	△18.4%
四半期純利益率*	△6.7%	2.1%	△0.6%	△0.0%	7.5%	0.1%	△2.5%	0.9%	△4.3%	△0.2%	△1.6%	△9.4%	△3.9%	△5.6%	△5.6%	△14.6%

## 売上高 (百万円)



## 利益 (百万円)



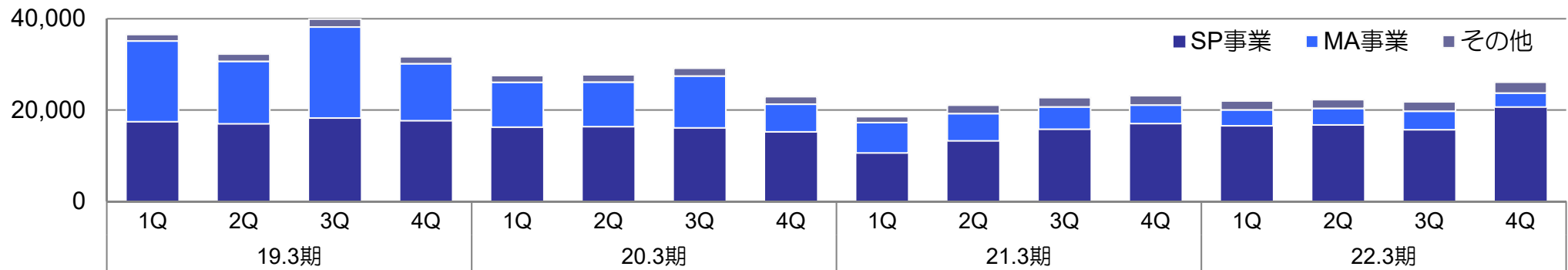
\*親会社株主に帰属する四半期純利益、売上高親会社株主に帰属する四半期純利益率

# セグメント別四半期業績

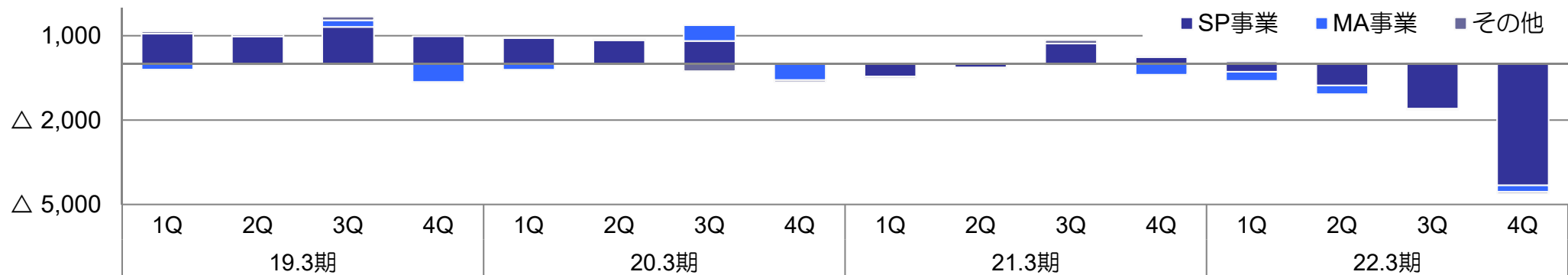
## 業績表 (百万円)

	19.3期				20.3期				21.3期				22.3期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高																
SP事業	17,462	16,988	18,269	17,684	16,253	16,378	16,097	15,227	10,619	13,273	15,802	17,042	16,553	16,741	15,703	20,679
MA事業	17,693	13,714	19,941	12,503	9,826	9,777	11,374	6,082	6,633	5,960	4,909	4,072	3,508	3,629	4,044	3,046
その他	1,399	1,591	1,731	1,503	1,511	1,596	1,706	1,641	1,321	1,855	2,010	2,058	1,947	1,933	2,061	2,389
営業利益																
SP事業	1,077	973	1,315	978	915	839	817	0	△448	△136	722	239	△279	△766	△1,593	△4,317
MA事業	△203	△51	235	△651	△205	35	558	△575	6	△1	△46	△383	△323	△308	△39	△226
その他	76	67	130	△8	30	△20	△258	△72	△65	△44	123	33	91	17	55	△69

## 売上高 (百万円)



## 営業利益 (百万円)



## 貸借対照表 (百万円)

	19.3期				20.3期				21.3期				22.3期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
流動資産合計	73,361	73,013	70,263	67,773	67,221	65,381	60,986	59,952	55,066	55,396	58,394	59,040	59,947	62,814	62,738	67,143
現金・預金	11,003	13,108	15,255	11,854	19,839	12,575	18,295	14,770	17,985	21,401	21,987	15,470	18,556	15,499	13,863	10,846
受取手形・売掛金	19,939	19,324	22,174	19,261	18,721	19,289	19,187	15,145	15,351	16,018	16,794	16,945	16,571	17,196	16,020	19,351
その他	42,419	40,581	32,834	36,658	28,661	33,517	23,504	30,037	21,730	17,977	19,613	26,625	24,820	30,119	32,855	36,946
固定資産合計	24,231	24,332	23,340	23,497	22,840	22,227	22,847	20,872	20,524	20,160	18,606	18,193	18,309	18,247	18,411	19,005
有形固定資産合計	18,768	18,922	18,357	18,475	18,927	18,116	18,013	17,980	17,673	17,312	15,787	15,213	15,234	15,190	15,354	15,614
無形固定資産合計	1,259	1,182	1,139	1,171	314	433	212	217	201	198	198	189	196	194	205	203
投資その他の資産合計	4,203	4,227	3,844	3,851	3,598	3,677	4,621	2,675	2,649	2,649	2,621	2,790	2,877	2,863	2,851	3,187
資産合計	97,593	97,346	93,604	91,271	90,062	87,609	83,833	80,825	75,590	75,556	77,001	77,233	78,256	81,062	81,150	86,148
流動負債合計	25,748	24,338	26,788	25,453	23,802	22,439	18,816	17,783	15,241	15,623	18,041	18,738	19,953	23,931	25,098	32,889
支払手形・買掛金	11,295	9,535	9,184	8,334	7,507	8,067	8,086	7,390	5,604	6,296	8,491	8,735	8,969	9,300	7,705	11,179
短期負債・社債合計	7,322	6,952	9,953	9,497	9,473	7,586	3,859	3,904	4,479	3,669	3,697	4,084	5,247	8,208	10,525	13,065
その他	7,131	7,851	7,651	7,622	6,822	6,786	6,871	6,489	5,158	5,658	5,853	5,919	5,737	6,423	6,868	8,645
固定負債合計	8,555	9,293	7,380	6,523	6,088	5,567	5,232	4,047	3,144	2,916	2,699	2,501	2,341	2,067	1,829	1,627
長期借入金・社債	7,529	8,243	5,455	5,108	4,490	3,918	3,365	2,637	1,850	1,606	1,362	1,118	875	631	450	300
その他	1,026	1,050	1,925	1,415	1,598	1,649	1,867	1,410	1,294	1,310	1,337	1,383	1,466	1,436	1,379	1,327
純資産合計	63,289	63,714	59,436	59,294	60,171	59,602	59,785	58,995	57,205	57,015	56,260	55,993	55,962	55,063	54,222	51,632
株主資本	58,634	58,155	54,328	54,322	56,162	56,185	55,120	55,335	54,201	54,169	53,568	50,837	49,868	48,646	47,177	43,409
その他の包括利益累計額	263	975	154	27	△931	△1,474	△310	△1,563	△1,952	△2,132	△2,486	△198	473	788	1,570	3,753
非支配株主持分	4,391	4,583	4,952	4,944	4,939	4,891	4,975	5,224	4,956	4,978	5,178	5,354	5,621	5,628	5,474	4,469
負債・純資産合計	97,593	97,346	93,604	91,271	90,062	87,609	83,833	80,825	75,590	75,556	77,001	77,233	78,256	81,062	81,150	86,148

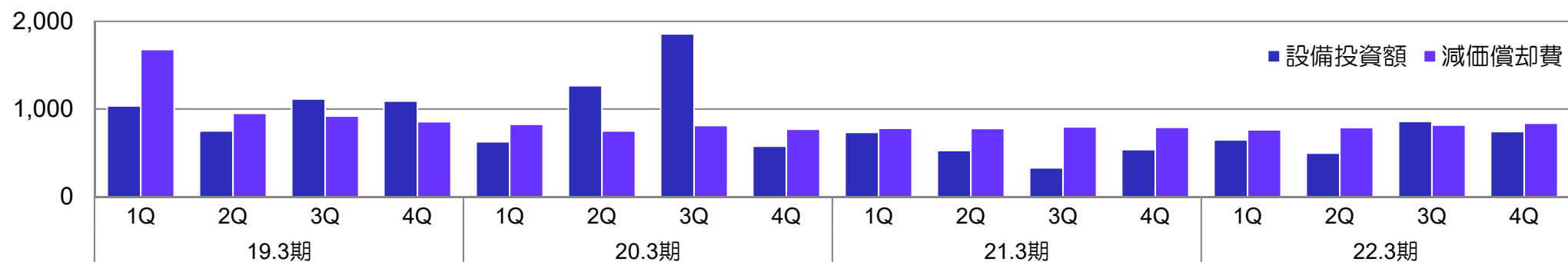
## キャッシュ・フロー計算書 (百万円)

	19.3期				20.3期				21.3期				22.3期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
営業活動によるCF	675	2,942	7,373	6,971	873	2,375	4,250	3,594	△2,309	3,626	960	△1,538	△2,351	△3,840	△3,309	△3,267
投資活動によるCF	△556	△1,598	△533	△738	1,862	△690	△1,322	666	△1,246	△351	△144	△219	△228	△1,172	△970	△701
財務活動によるCF	2,043	△885	△3,315	△780	△1,023	△2,308	△4,758	△734	△691	△1,004	△384	△545	658	2,709	2,548	856
CFに係る換算差額	△320	510	△318	△96	△229	△269	△75	195	△375	△40	△76	778	201	42	△12	551
CFの増減額	1,840	972	3,204	5,357	1,482	△892	△1,905	3,721	△4,622	2,231	357	△1,523	△1,720	△2,260	△1,743	△2,561
CFの期末残高	11,991	12,962	16,167	21,514	23,007	22,114	20,209	23,930	19,307	21,539	21,895	20,373	18,653	16,392	14,650	12,089

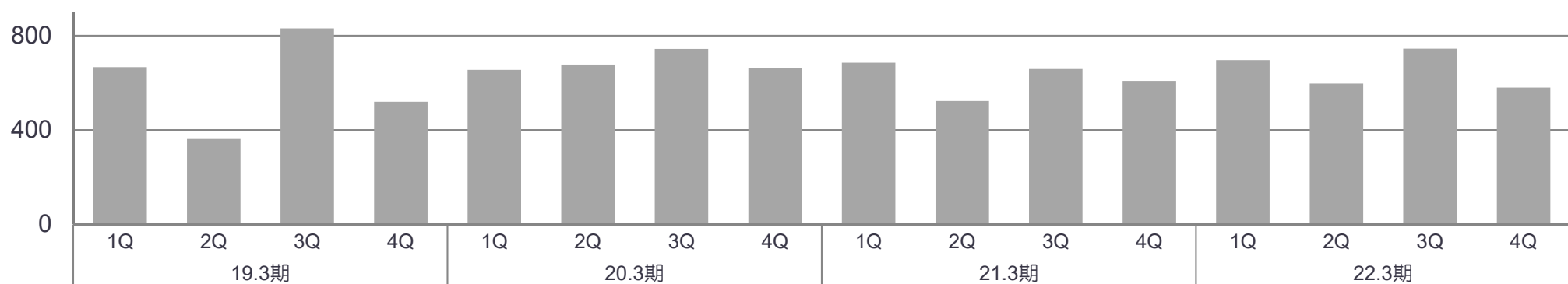
## 設備投資額、減価償却費及び研究開発費（百万円）

	19.3期				20.3期				21.3期				22.3期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
設備投資額	1,036	750	1,116	1,092	627	1,267	1,858	576	734	528	330	538	648	498	859	744
減価償却費	1,680	951	921	856	826	750	812	771	781	779	797	791	763	789	818	839
研究開発費	667	362	831	520	655	678	744	663	686	523	659	608	697	597	745	580

## 設備投資額、減価償却費（百万円）



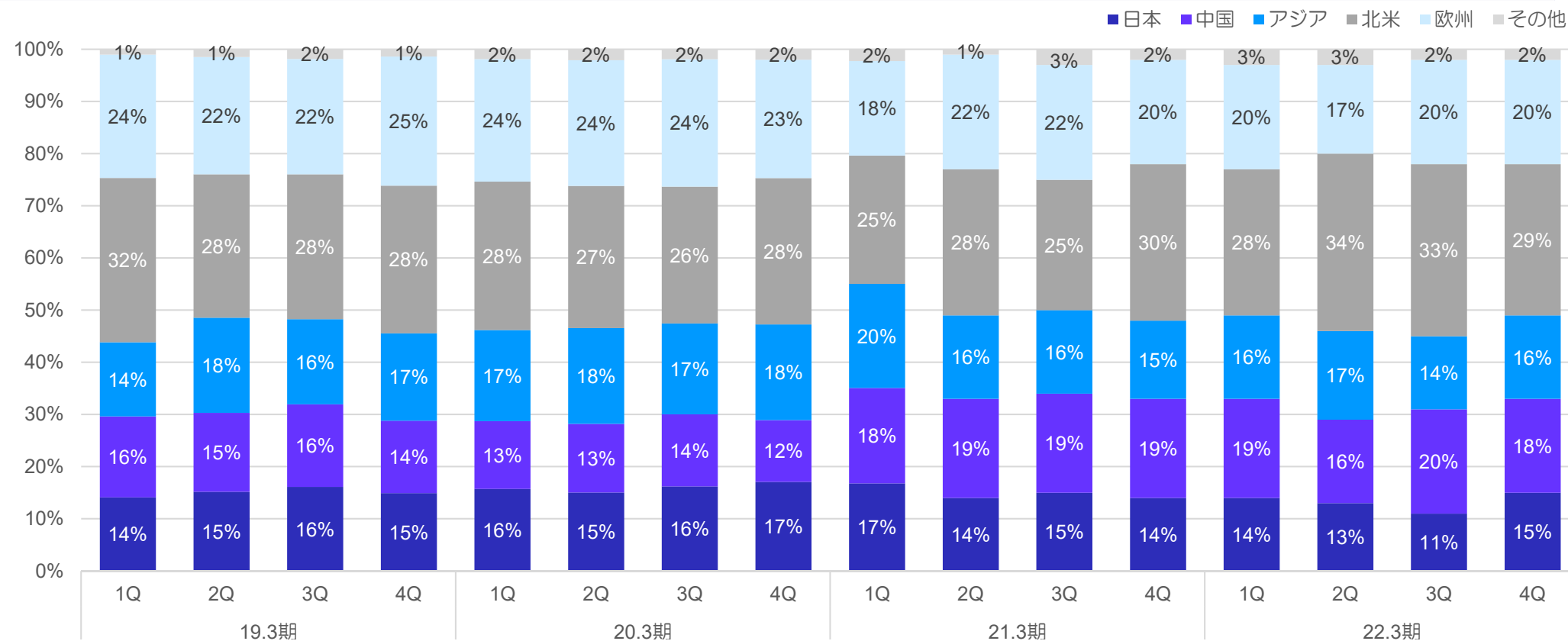
## 研究開発費（百万円）



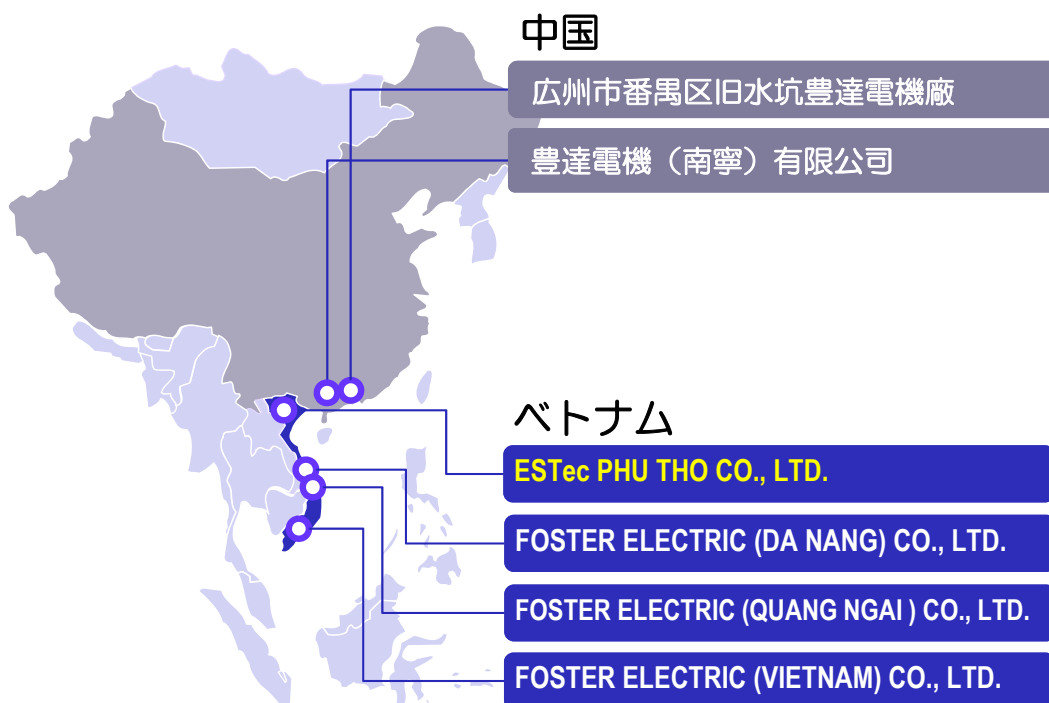
# 四半期 車載用スピーカ地域別売上高構成比

車載用スピーカ地域別売上高構成比

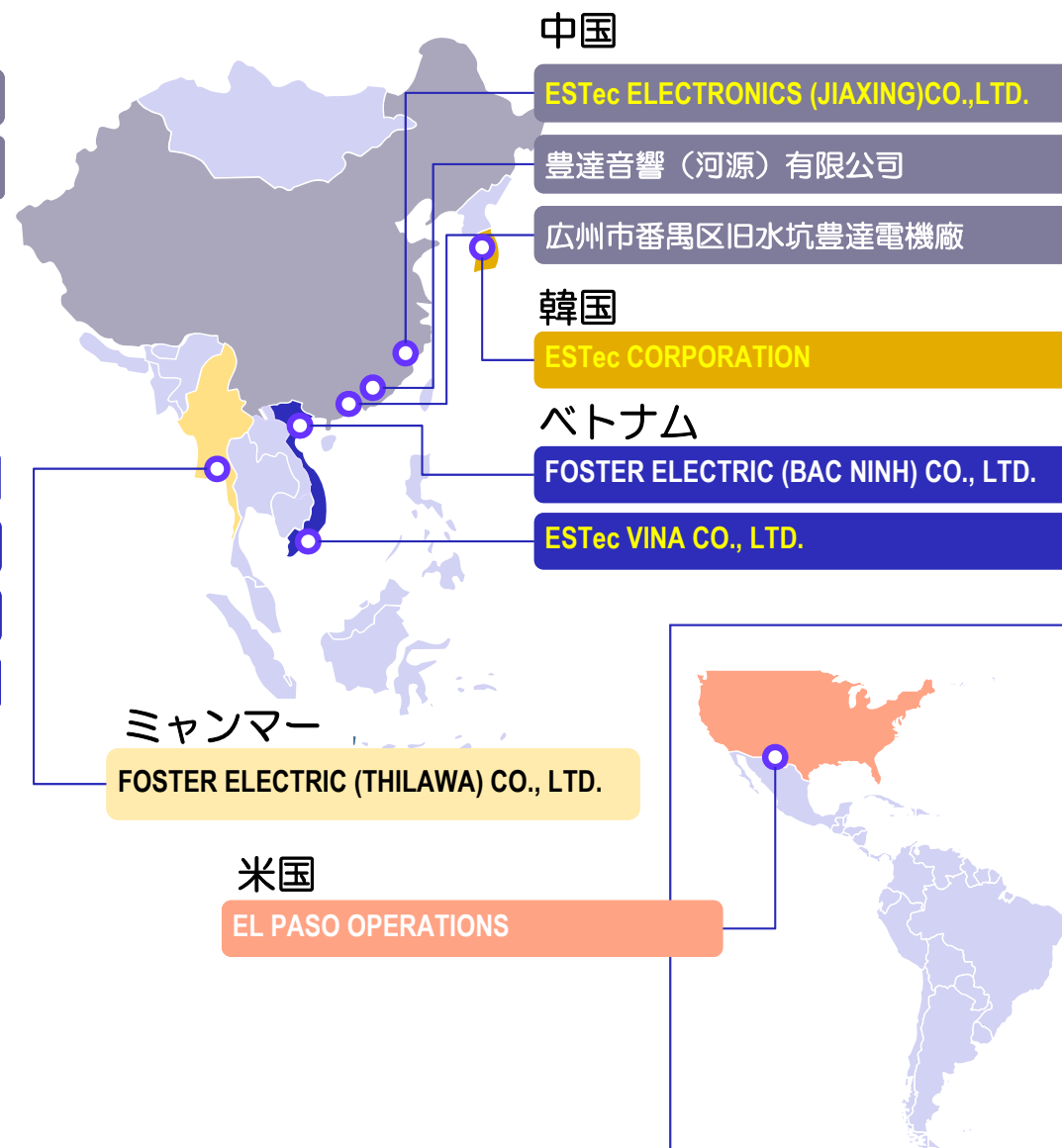
	19.3期				20.3期				21.3期				22.3期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
日本	14%	15%	16%	15%	16%	15%	16%	17%	17%	14%	15%	14%	14%	13%	11%	15%
中国	16%	15%	16%	14%	13%	13%	14%	12%	18%	19%	19%	19%	19%	16%	20%	18%
アジア	14%	18%	16%	17%	17%	18%	17%	18%	20%	16%	16%	15%	16%	17%	14%	16%
北米	32%	28%	28%	28%	28%	27%	26%	28%	25%	28%	25%	30%	28%	34%	33%	29%
欧州	24%	22%	22%	25%	24%	24%	24%	23%	18%	22%	22%	20%	20%	17%	20%	20%
その他	1%	1%	2%	1%	2%	2%	2%	2%	2%	1%	3%	2%	3%	3%	2%	2%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
売上高合計 (百万円)	15,165	14,611	14,820	14,739	13,598	13,735	13,233	12,840	8,478	11,898	13,155	14,985	13,652	13,295	13,588	17,538



## モバイルオーディオ



## スピーカ



(2022年3月31日現在)

**【注記事項】**

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、現時点において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与えるリスクや不確実な要因に関する現時点における仮定等に基づいて算定しておりますが、実際の業績結果は、当社グループの事業領域を取り巻く経済状況・関連市場やOEM得意先の景況、国内外の競合状況・価格競争の動向、原材料市況、為替相場、海外展開上のリスク、国内外の法規制、災害・事故、株価等、多分に今後様々な要因によって上記予想・見込みとは異なるものとなる可能性があります。

**【お問合せ先】**

フォスター電機株式会社 IR・ガバナンス統括部 IR課

TEL : 042-546-2305 / FAX : 042-546-2317

〒196-8550 東京都昭島市つつじが丘一丁目1番109号